

平面上でも異なる材質の床で転倒リスク高まる

△2面からつづく▽



で滑りにくい材質の床から雨などで滑りやすくなった床材に踏み出した瞬間、足を滑らせ転倒してしまいやすくなってしまふのだ。この他にも、過去に発生したあるスパーマーケットでの転倒事故では、床に落ちたキャベツの葉に足を取られ負傷したという事例もあるようだ。床材の滑りやすさを比較する際には、JIS（日本工業規格）で定められた滑り抵抗値（C・S・R）が用いられる。この値が0・45を下回ると通行した際に滑りやすいとされ、平時は0・45以上の値を示す床材でも、雨天時になると0・45以下になる場合もあるため、床材の滑りやすさを測定する場合には濡れた状態での測定も忘れてはならない。

また、建物のエントランス部にはマットが敷かれていることが多いのだが、滑り止め効果の高いマットと周囲の床材との滑り抵抗値が大きいほど転倒事故が発生しやすい。雨天時はエントランス部に雨水がたまりやすく転倒の危険性が倍増することから、利用者の動

きになる。予期せぬ事故によって思わぬリスクを回避するためにも、建物利用者の安全性・快適性向上の一つの手段として、防滑対策はオーナーが取り組むべき課題であるといえるだろう。

床を濡らさない「転倒予防」として玄関マットが重要



日本支店 代表
リック・デグ
のの、メン
ナンスが簡
なため、ス
パーやコンビ
ニで主に採用

当社はオランダに本社を置く床材メーカーで、環境配慮型のリノリウム床材を中心に床材全般を扱っています。現在、セラミックタイルを導入する施設が急増しています。

施工費用は若干高いものの、メンテナンスが簡単



取締役営業部長
川瀬 康弘氏

防滑対策の必要性もっと認識されるべき

ハイオニア・サービス

首都圏エリアにおいて、マンションや事業用物件などのビルメンテナン業務を受託しているハイオニア・サービスは、実際に事故が起る前に予防のための対策を行うビル

大掛かりな工事になりかねませんが、

「フロアメンテナンス



代表取締役
谷 健二氏

スパーやコンビニで主に使用されるセラミックタイルは、容易に清掃できることから、コスト削減のため導入が急増しています。しかし、その反面、

特殊薬剤を塗布し滑りやすい石材を防滑

特殊な薬剤を塗布し滑りやすい石材を防滑

三和



代表取締役
大木 彬氏

安全・衛生・低コストをキーワードにフロアコーティング剤開発

は多くありません。転倒事故は、